



巻頭言／全世代を対象に将来を見据え、
中長期視点の事業の「見える化」を図りたい — 2

「経営デザインランクアップ認証」品質向上プロジェクトの実を結ぶ — 3

「ライフ・ステージ 夢咲(ゆめさき)」立ち上げ
障がい・高齢 “共生型サービス” 目指す — 3

会話もできるよ！ 英語遊び参観を実施 きりん夜間愛育園 — 3

地域貢献・交流・災害支援 — 4~6

自立支援コース高校生の職場体験実習受け入れ 吹田竜ヶ池ホーム
災害支援ボランティアに参加し、台風禍の宮城県丸森町へ
ベトナム人技能実習生が計6名に 岩戸ホームとサンヒルズ紫豊館
「ええ声トレーニング、やっています」 嚙下訓練効果も 高槻けやきの郷
地域の「ちびっこふれあい運動会」に第二愛育園保育スタッフら参加
小路小の国際理解発表会に5歳児招待される 東生野愛育園

先輩からのメッセージ — 7
(保育)第二愛育園・橋本佳乃さん、(高齢者)せつつ桜苑・角屋仁南さん

正しい知識と防止の共通認識を一役職者対象の「ハラスメント研修」 — 7

トピックス — 8

ヘリコプターが来たーッ！ 園児が描く人文字「令和」



認定こども園正雀愛育園は改元「令和」を記念し、3歳児から5歳児の園児82名と職員が人文字で「令和」を描き航空写真を撮影しました。撮影のためヘリコプターの機影が近づくと「来たーッ！ヘリコプターの音がする」と子どもたちは大歓声。撮影が終わると一斉に手を振って見送りました。子どもたちの巣立ちへの期待がふくらみます。

千里丘愛育園の園児 サッカー大会でめざましい活躍

千里丘愛育園は万博記念公園運動場(吹田市)で行われたサッカーの第32回すいたCUP(11月7日・写真)に5歳児が6チーム編成で出場、男子Aチームが優勝、女子Bチームは準優勝、女子Aチームも3位とめざましい活躍ぶり。また、摂津市スポーツ広場で行われた第12回摂津カップフレンドリーマッチ(11月14日)でも同園から男女混合6チームが出場、A、C、Dの3チームがブロック優勝。決勝トーナメントではAチームが決勝戦に進出、善戦及ばず敗れましたが、表彰式でたくましく成長した姿を見せてくれました。



よき時代へ期待新た 高岡國土理事長ら 天皇即位奉祝「提灯行列」に参加

天皇陛下御即位を祝う大阪・御堂筋「提灯行列」に成光苑の高岡國土理事長はじめ計7名の職員が参加しました(11月20日)。同日午後6時、総勢約3,000名が提灯と日の丸の小旗を手に大阪市役所を出発、難波まで約1.6キロを練り歩きました。大阪府民が心を一つに、よき時代「令和」への期待を新たにしました。



カラフルなヘアピンなど アイデア、制作、販売も ココリスのご利用者

ココリス(障がい福祉サービス)のご利用者(生活介護)はアイデア商品を考え、自ら制作し販売を始めました。「ヘアピン」や「ヘアゴム」「ピアス」「イヤリング」「しおり」など多彩。ラッピングシールを貼るなど制作し、グループ内の高齢者施設、高槻けやきの郷の秋祭り(10月19日)に出店。1商品100円~350円と求めやすく多くの方に買っていただきました。



- 〔法人理念〕**
1. 個人の尊厳を旨として、その人にふさわしい最善のサービスの提供に努める。
 2. 地域に開かれ、愛され、地域福祉の拠点となる施設経営を目指す。
 3. 専門的知識、技術の研鑽に努め、誇れる施設を目指す。
- 〔サービス目標〕**
1. オンリーワンとナンバーワンを目指す。
 2. オンリーワンとはその施設にしかない特色の創造であり、ナンバーワンとはご利用者の処遇の満足度を高めるため、常時積極的な取り組みをすることである。
- 〔老人施設経営方針〕**
1. 安らぎのある生活と環境を提供し、生きる喜びを創造する。
 2. 介護機能の多様化を図り、ご利用者に対し、総合的なサービスの提供をする。
 3. 地域の一員として、地域福祉の活性化に貢献し、超高齢社会のセーフティーネットの機能を発揮する。
- 〔愛育園経営方針〕**
1. 新しい時代に生きる力の基礎を培う。
 2. 女性の社会参加の支援に貢献する。
 3. 地域子育て支援を積極的に行い、子どもの成長を喜ぶ社会の実現に寄与する。

【発行日】2020年1月
【発行】社会福祉法人 成光苑 (理事長 高岡 國土)
〒566-0001 大阪府摂津市千里丘3丁目16-7
TEL.06-6330-3776 FAX.06-6388-9551
URL. <http://www.onyx.dti.ne.jp/~seikouen/>

★「ききょう」の由来
創業者が愛した京都府福知山市は、冷泉を利用して地元に開放するお風呂を作り、当法人として老人施設を初めて開設した地。その福知山市の花である「桔梗」から名づけられました。「ききょう」の花言葉は「変わらぬ愛」「誠実」「感謝」「気品」。



巻頭言



全世代を対象に将来を見据え、
中長期視点の事業の「見える化」を図りたい

理事長 高岡 國士

皆様におかれましては、健やかに新年をお迎
えのことと存じます。日ごろから社会福祉法人
成光苑の事業推進に多大のご協力を賜り厚く
お礼申し上げます。

天皇陛下に喜びと賛辞「めてお祝い

昨年11月に天皇陛下御即位をお祝いする
「御堂筋提灯行列」に参加しました。大阪市役
所前から難波まで、主催者から提供された提灯
と国旗を携えて御堂筋を「天皇陛下万歳、皇后
陛下万歳」と合唱しながら行進しました。最初
は気恥ずかしく自重気味でしたが、慣れてくる
と大きな声で「天皇陛下万歳」と言えるよう
になりました。長年、やったことのない行動でし
たが、全国各地の国民が「人類の平和と調和」を
尊ばれる天皇陛下に喜びと賛辞を込めてお祝
いできました。

日本の歴史上、元号の最初は「大化」に始ま
り、昨年5月に「平成」から「令和」に変わら
しめられた。世界にも例をみない幾星霜を経なが
ら、皇を挙げて天皇家は継承承統されてきました。

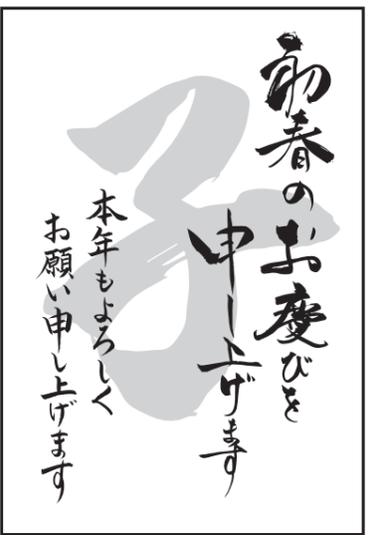
組織の礎となる
「人財」の確保・育成・定着

組織論で言えば、成光苑も昭和25年4月に
千里丘保育園として認可されて以来、おかげさ
まで今年70年目を迎えます。この間、規模が大
きくなってきた法人組織を維持存続するため
は、今後、幹部職をはじめとする関係スタッフの
より一層の努力が必要であると考えており、社会
福祉法人を取り巻く状況や将来を考えると身
の引き締まる思いがあります。

少子高齢化の進展により、社会福祉法人を
取り巻く環境は厳しさを増すばかりです。加え
て、昨今の福祉人材不足は、社会福祉法人に
とって死活問題とも言えます。年が改まっても、
やはり喫緊の課題は、組織の礎となる「人財」
の確保・育成・定着です。基本理念や経営方針
に立ち返って、社会福祉法人としての役目・役割
を果たし続けられるよう、園、施設の経営を進
めていかなければなりません。

中間職層に「わかる化」、
現場に「できる化」の浸透を

子どもからお年寄りまで全世代を対象とし



て、将来を見据えた事業展開が真に求められて
います。今後、社会福祉法人としての生産性の
向上を図りながら、10年後のあるべき姿を目指
すため、成光苑の強みを認識し、中長期視点の
事業計画による「見える化」を図り、中間職層
に対する「わかる化」、第2線の現場に従事する
スタッフに対する「できる化」を浸透させていき
たいと考えております。

地域福祉の拠点として、10年後も地域の住民
からあつて良かったと頼りにされ愛される園・施
設の運営に努めてまいりますので、今後とも変
わらぬご支援ご指導をよろしくお願い申し上げ
ます。

先輩からのメッセージ

心配性だけど物事を最後までやり遂げるタイプです
「あんた(ケアが)上手になったね」のご利用者の声を支えに



角屋 仁南さん
2019年度入社
せつつ桜苑

私は、物事を最後までやり遂げたいタイプです。その
うで相手の気持ちに配慮することを強く意識していま
すが、とても心配性なところもあります。先輩方に嫌わ
れてもいいくらいの覚悟でしっかり意見を聞くように心
がけています。
「介護の仕事」は確かに大変ですが、楽しいこと、嬉し
いこと、やりがいもあります。ご利用者から「あんた前
より(ケアが)上手になったね」とか、自分では当たり前
のことをしているだけなのに褒めていただいた時など
です。先輩方が見守ってくださっているので安心して仕事
ができています。

明るい性格、子どもたちにたくさんの笑顔届けたい
不安や悩みを聞いてくれる心強い先輩がいます



橋本 佳乃さん
2019年度入社
第二愛育園

私が保育の仕事に向いていると思うのは「明るい性
格」です。笑っている時が一番楽しく幸せ。だから子ども
たちにもたくさん笑ってほしいと思っています。
卒業を控えた方は、内定が決まってからも「社会人とし
てちゃんと働いていけるのか」と不安に思っている人も
いるでしょう。私もそうでしたが、丁寧に話を聞いてくれる先
輩が周囲にいるので心強い職場環境です。準備が大変な
行事など子どもたち同様に大きな達成感に浸れます。

漢字研修
で学ぶ
保育部門

大切な集中できる
話し方や表現方法

きりん夜間愛育園では、外部講師に登龍館
の齋藤弘芳氏と下店恵梨子氏を招き「漢字研
修」(各園巡回)を行いました(12月13日、成光
苑研修センター)。

講師にまず、3、4、5歳児の実際の漢字遊び
や絵本読みの様子を見学してもらいました。保育士は緊張気味で
したが、子どもたちは丁寧に絵本を読む姿が見られました。

講師からのアドバイスでは「漢字カードを読む時は子どもの目
を見て」「保育士が笑顔で楽しくすることが大切」などの適切な指導
がありました。参加した保育者からは子どもの年齢に応じ「集中で
できる話し方が理解
できた」、「(保育
者の)表情や表
現方法も重要と
分かった」などの
感想が寄せられ、
日々の保育活動
のレベルアップに
つながる貴重な研
修となりました。



「介護の実践を可視化し、福祉の専門性を社会に」と城氏
研究・発表の理解深める「オプション研修」

高齢者部門では、神戸大学名誉教授で
成光苑の顧問でもある城仁士氏を講師に
「オプション研修」を大阪会場(吹田竜ヶ
池ホーム)で11月12日(参加14名)、京都会
場(岩戸ホーム)で11月29日(参加22名)に
それぞれ行い、他法人からも複数名参加さ
れました。
この研修は「例年実施している“研究発
表会”の一助に」と城氏から提案され、「介
護福祉現場における研究の意義と方法」
をテーマに講演。「研究を通して日頃の介
護の実践を可視化し、高度な福祉の専門
性を広く社会に発信する。科学的根拠を
持つて継続的に取り組むことで福祉職の
社会的地位と業務・待遇の改善にもつな
がる」と激励されました。

正しい知識と防止の共通認識を

役職者対象に「ハラスメント研修」



高齢者部門京都エリア(岩戸ホームサンヒルズ
紫豊館)ライフステージ 舞夢では、公益財団法
人介護労働安定センター 京都支部の寺島幸太
郎氏(知足庵人間科学研究所)を招き、各施設
長はじめ57名の役職者対象に「ハラスメント研
修」を実施しました(11月15日)。
パワーハラスメントをはじめ、ハラスメントは企業
や組織のなかで問題になっていきますが、ハラスメン
トの正しい知識をもつこと、防止のための取り組
みについて学ぶのが狙いです。

寺島氏は、ハラスメントが個人
の問題に留まらず、法人にとっ
て経営や信頼、人事に影響を
およぼす問題であると指摘さ
れました。今回の研修内容を
共通認識として、さらに健全な
職場運営、働きやすい職場環
境を目指し、全リーダー層が危
機管理意識を高めて取り組ん
でいきたいと思います。

今回は惜しくも入賞を逸しましたが、同
コンテストは技術のレベルアップを図るだけでな
く、全国と同じ介護の仕事に従事している仲
間と交流する貴重な機会にもなっています。

手作り オルゴール演奏に 盛り上がる



「くるみふれ愛っこまつり」 に地域の方も参加

地域みなさんに参加を呼びかけた「くるみ愛育園」恒例の「くるみふれ愛っこまつり」、高齢者の方にチケットを無料配布したり、初企画の手作りオルゴールの演奏が披露されなど例年になく盛り上がりとなりました(11月30日)。

ボランティアさんによる手作りオルゴールの演奏では、子どもたちも初めて見るオルゴールの形や音色、それにボランティアさんの独特のシルクハット姿や優しい口調に、近づいてオルゴールに触るなど興味津々。模擬店では、炭焼きサンマ、焼きイモが今年も人気で、香ばしい匂いに誘われ、あちこちに親子連れの頬張る姿が見られました。

小路小の児童が民族衣装でお出迎え 国際理解発表会に5歳児招待される

東生野愛育園

東生野愛育園の5歳児21名は、近隣の大阪市立小路小学校の国際理解発表会・小路っ子マダンの行事に招待され参加しました(11月26日)。

国際理解発表会では、同小の児童が各国の代表的な衣装を着て民族舞踊を披露したり、クイズ形式で国の挨拶を当てる参加型も。また「小路っ子マダン」(マダン=韓国語で「広場」という意味)は、各教室のコーナー遊びで児童から日本・韓国・中国・バングラデシュ・フィリピンの遊びを教してもらいました。案内表示を見ながら「次は中国に行きたい!」とか「ベトナムの遊びはあるの?」と子どもたちもすっかり夢中。特に興味を示したのは独特のリズム感のある「バンブーダンス(フィリン)」(写真)でした。

同園(生野区)のある地域は様々な国の方が生活されており、地域で多文化を知ろうという取り組みが盛ん。同園にも多くの国の子どもが在籍し、多文化への理解や関心を持ってもらえる保育を行っています。



地域の「ちびっこふれあい運動会」に 子ども109名集まる 第二愛育園から 園長ら保育スタッフ参加

第一愛育園の堤知子園長ら男女計4名の保育スタッフは、吹田市立山田中学校体育館で行われた「ちびっこふれあい運動会」(主催・山田中学校区地域教育協議会)に参加しました(11月10日)。

この運動会は、同協議会と近隣の幼稚園・保育園・子育てサロンの職員が連携して開かれたものです。体操、リズム、布あそび、触れ合い遊びなど0歳児〜就学前の子どもたちと親子で楽しめる内容で、81世帯、109名の子どもが集まった大きなイベントとなりました。子どもたちにも人気を呼んだのは「おみやげかけっこ」。ゴールで第二愛育園が提案し採用された手作り玩具輪投げをもらい大喜び。会場設営撤収では男性保育士も大活躍でした。



同日は、かなりや組(3歳児28名)が「歌まっかな秋」、「ダンスにんじやりばんばん」を、りす組(5歳児28名)が「(和太鼓)夏祭り」、「ダンスジャンボリミッキー」、「歌りんごのひとりごと」を発表しました。和太鼓の力強い演奏に「おおー!」と大歓声、大きな拍手に子どもたちも嬉しそう。最後にはりす組の子どもたちが肩たたきをして参加者とお別れしました。

同サロンは味生小学校区福祉委員会の地域福祉活動の一環で「みんなが安心して暮らすことができる福祉のまちづくり」を目指し小地域ネットワーク活動を展開、地域に開かれた園として協力しています。

7年ぶりの「福祉サロン」開く

地域の方招きダンスや和太鼓を披露 認定こども園一津屋愛育園の園児たち

認定こども園一津屋愛育園は遊戯室(2F)に、31名の地域みなさんを招き「福祉サロン」を行いました(12月12日)。これまで近隣の摂津市立味生小学校が会場となっていました。園の様子を見て「久しぶりに園の様子を見てみたい」という校区福祉委員(地域住民)からの要望に応え約7年ぶりの開催。



法人の「ありたい姿」への挑戦

「経営デザインランクアップ認証」 品質向上プロジェクトの実を結ぶ

高齢者部門では「経営デザイン認証」ランクアップ認証(主催:公益財団法人日本生産性本部経営品質協議会)の申請(2019年9月13日)を行い、書類審査とトップインタビューを経て同11月7日に認証(3年間)され、12月19日に帝国ホテル(東京都千代田区)で認証式が行われました。

経営デザイン認証とは「ありたい姿」の達成に結びつく成果の指標、目標が見える化され、実践していると認められた法人(企業)に与えられるものです。今年度は、東京海上日動火災保険ディーラーカンパ

東京・帝国 ホテルで認証式

2019年度経営デザイン認証式

主催 公益財団法人日本生産性本部 経営品質協議会



ニ(損害保険)など22組織が認証されました。

成光苑では2016年度から経営品質向上プロジェクト「現場と経営層をつなぐ、

次世代を担う」(法人プロジェクトメンバー9名)を発足させ、法人の「ありたい姿」(現在の環境認識「変革の課題」などを「現在の経営設計図」にまとめ経営をデザイン、生産性の改善改革に取り組みを進めました。

同プロジェクト発足から約3年、この取り組みに対する「現在位置」を確認するために今回の申請となりました。今後は、利用者満足度(CS)の向上にとどまらずスタッフ満足度(ES)を向上させ、事業の承継を活性化していきたいと考えています。

「ライフ・ステージ 夢咲」立ち上げへ 障がい者・高齢者 “共生型サービス”を目指す 福祉の未来築く採用活動スタート

高齢者部門京都エリアでは令和3(2021)年4月を目途に「障がい者・高齢者地域共生型総合福祉施設 ライフ・ステージ 夢咲(ゆめさき)」を西舞鶴地区に開設することになり、設立準備室を設けました。「共生型サービス」の展開を目指し、高齢者サービス・障がい者サービスの福祉事業を同時に立ち上げます。

すでに採用活動を開始「オープニングスタッフ就職説明会」(11月16日、JR西舞鶴駅交流センター)には5名の方が来訪されたのを皮切りに、今後も定期的に説明会や面接会を行います。

すべての方が一緒になって輝く場所と安心できるサービスを提供する施設として、福祉の未来を築いてもらえる様々な職種、障がい・高齢者サービスに係るケアスタッフ、理学療法士、看護師などの仲間を募集しています。新たな福祉事業に興味があれば、ぜひご連絡ください。

お問い合わせ・連絡先

ゆめさき
ライフ・ステージ 夢咲 開設準備室
(ライフ・ステージ 舞夢内)
【担当】 山本・小林 【電話】 0773-83-0221
【メール】 maimu@iris.eonet.ne.jp

保育部門で「障がい児研修」

保育部門では、ココリス(障がい福祉サービス)の保田佳代子相談支援専門員と東川慶子臨床心理士が各愛育園を巡回指導(2回)する「障がい児研修」を行っています。昨年4月から障がい児相談支援事業が始まったことから、各園の事情を専門職に知ってもらい、福祉サービス(保育と障がい)の連携を図るのがねらいです。

認定こども園一津屋愛育園に対する巡回指導(12月13日、2回目)は、前回(6月28日)巡回指導の振り返りなどを踏まえた研修で、中堅以上と障がい児担当者を対象に行われました。

「発達支援事業(ココリス)について知り、連携を醸成する機会とする」などがテーマ。参加スタッフからは「気になる子ども(感情のコントロールが苦手な子どもや気持ちを言葉にすることが難しい子ども)への個々の関わり方や実践向きのアドバイスを専門職からもらい心強い」と好評でした。

日どるの成長、見てね!

きりん夜間愛育園では「英語遊び参観」を実施しました(11月28日)。2020年度から日本の小学校でも英語教育が必修化されますが「保護者の方に英語教育の様子と成長を見てほしい」という目的で英語遊びを発表形式としました。



英語遊び(3、4、5歳児)は、外部英語講師のマティーナ・ディロン氏が毎週1回、工夫を凝らして楽しく指導されています。「今年は時間をかけて」と、3歳児

- #### 英語遊び参観を実施
- きりん夜間愛育園
 - 3歳児 ジェスチャー付き発音
 - 4歳児 末尾のスペル“S”を区別し発音
 - 5歳児 レストランの店員と客になり英会話

は簡単な英単語を答えた後、ジェスチャー付きで発音し、4歳児は最後のスペルが「S」で終わるものとそうでないものとの区別をボードに貼り発音しました。5歳児は、レストランの店員役と客役になって簡単な会話をしました。保護者の方から大きな拍手をもらい、子どもたちの英語に対する関心と自信に繋がったと思われます。

成光苑保育部門では英語遊びを約20年以上前から取り入れています。「グローバル化が進み英語力が必要になる。ネイティブな英語に触れてほしい」という高岡国土理事長の思いから始まりました。

台風禍の宮城県丸森町で側溝の泥だし、家具の搬出などに従事

吹田竜ヶ池ホームの佐藤施設長ら 災害支援ボランティアとして活動

吹田市社会福祉協議会施設連絡会の案内、募集に応じ、吹田竜ヶ池ホームの佐藤裕之施設長と第二愛育園の多田諒哉保育士は昨年台風19号で大きな被害を受けた宮城県丸森町で災害支援ボランティアとして活動しました(11月24日～26日)。

災害支援ボランティアは、佐藤施設長、多田保育士を含む福祉施設職員7名のほか、一般参加者ら計21名。大型バスで宮城県丸森町ボランティアセンターに到着しました。

作業は3班に分かれ、被災された方の住宅の庭先や側溝の泥出し、床上浸水によって使用できなくなった家具の搬出など、住民の方から慎重にニーズを聞きながらお手伝い。被害は報道で知る以上に大きくまだまだ支援を要すると実感しました。



災害発生時に福祉支援活動の要請に応える

高齢者部門大阪エリアでは、大阪府災害派遣福祉チーム大阪DWA-T(ディールワット)養成研修に高槻けやきの郷2名、せつづ桜苑3名、吹田竜ヶ池ホーム2名の計7名が参加しました。
DWA-Tとは、一般避難所で災害時要配慮者(高齢者や障がい者、子どもなど)に対する福祉支援を行う福祉専門職のチーム
高槻けやきの郷(京都府)の京都DWA-T活動については2018年秋号に掲載
構成は1チーム4～6名程度。介護福祉士、介護支援専門員、看護師、理学療法士、保育士など専門職での構成で、活動期間は原則として災害より1ヵ月程度。1チームの派遣期間は5日以内となっています。

大阪DWA-T養成研修に高槻けやきの郷2名、吹田竜ヶ池ホーム2名の計7名が参加

オレンジ色のTシャツがはなぐ「RUN伴(ランとも)」



きりんデイサービスセンター

ご利用者、職員ら 9名初参加

きりんデイサービスセンター(認知症対応型)は、ご利用者2名と河島康文課長(同管理職)、それに大阪人間科学大学生、介護者家族の会のボランティア計9名が「RUN伴(ランとも)2019(運営・NPO法人認知症フレンドシップクラブ)に初参加しました。
RUN伴は、認知症の方や家族、支援者、地域の人が少しずつつりつれをしながらタスキを全国につないでいくイベント。
同センター近くの法人本部駐車場で、前走者(他法人)からタスキを引き継ぎ、オレンジ色の揃いのRUN伴Tシャツ(オレンジ色は認知症の人を応援する色です)を着て約2.3キロ先のゴール、大阪人間科学大学を目指しました。水分補給や休憩を取りながら、ご利用者は予想以上に力強い足取りで前進。ボランティアなど多くの関係者に出迎えられ、無事笑顔でゴールテープを切ることができました。



高齢者の喉を鍛え、嚥下訓練効果も

高槻けやきの郷
デイサービスセンター

高槻けやきの郷デイサービスセンター(定員40名)では昨年6月から意欲向上プログラム(選択プログラムの一つ)として「みんなええ声クラブ」(午後1時間)を発足、毎日10名～20名が参加されています。
ご利用者から「一人暮らしで話す機会がない」「食べ物が喉に引っかかる」などの悩みや相談が

あり「喉の力が弱くなっているのでは」と気づいたのが始まり。高齢者の喉の衰えは「誤嚥性肺炎」のリスクもあり、いわば「ええ声トレーニング」です。
プログラムは「発声練習」、「早口言葉」、「表情トレーニング」、「懐メロ」など。連続して声を出すことで喉が鍛えられると同時に嚥下訓練(間接訓練)としての効果も期待できます。

「働く」体験積む 職場体験実習受け入れ

吹田竜ヶ池ホーム

府立高校自立支援コースの男子生徒

吹田竜ヶ池ホームでは12月2日から5日間の日程で、大阪府立柴島高校知的障がい生徒自立支援コースの男子生徒1名の職業体験を受け入れました。職場の体験実習で「働く」経験を積むという同校の進路指導に同施設が連携したものです。

日々の振り返りでは、生徒が掲げた「5日間の期間中に自分から職員やご利用者に話しかけられるようになる」という目標が「なかなかクリアできない」と少し弱気な発言もありましたが、最終日には「ありがとうございました!」としっかり挨拶をされ、ご利用者から手を握られ「頑張りや!」と励ましの言葉をかけられる感動的な光景もみられました。短い期間でしたが、生徒の将来につながる貴重な体験になってほしいと願っています。

福祉の職場や仕事の魅力学ぶ 上豊富小の4年生18名



サンヒルズ紫豊館で総合学習授業

福知山市立上豊富小学校の4年生18名が総合学習の授業としてサンヒルズ紫豊館に訪れました(10月10日から4回プラン)。京都府推進の「福祉の仕事 次世代の担い手育成事業」の一環。小学校4年生から中学3年生を対象に実施、福祉の職場や仕事の魅力に触れ、高齢者・障がい者福祉の現状について理解を深めるのが目的です。

今回はバリアフリー設備体験に関心・興味を示した様子。ご利用者とのレクリエーション交流では、児童が準備した塗り絵や折り紙、双六などを行いました。最終回は同施設職員が出前授業で「認知症サポーター養成講座」を開講、寸劇などを交え認知症の基礎知識を学んでもらいました。

寄席や健康教室を開き「元気と健康」発信

“ホールを活用し開催” 岩戸ホーム

岩戸ホームは、すずらんホールを活用し、地域の皆さんにも参加してもらえ「お笑い寄席」を開いた「健康体操教室(写真)を開催、心と体の「元気と健康」を発信しています。
「お笑い寄席」(11月16日)では松竹芸能所所属の漫才師「海原はるかかなた」「チキチキジョニー」、同じく落語家「森乃石松」の3組の芸人さんを招きました。186名(うち地域住民56名)もの来場者で同ホールは満員御礼の賑わいとなりました。
「健康体操教室」(11月12日)15名参加、同26日19名参加)は、エアロビクスインストラクターの経験豊かな国立循環器病研究センターの心臓リハビリ運動療法を習得した専門トレーナーの達川実佐江氏が指導。有酸素運動(60分)とセラバンド(あらゆる部位の運動に対応するエクササイズバンド)を使用し、心肺機能向上筋力持久力向上などを目指したものです。アップテンポのリズムと同トレーナーの楽しいトークに参加者(50代～80代)の笑顔が広がりました。



介護技術に加え 日本語習得の指導に努める 岩戸ホームとサンヒルズ紫豊館

高齢者部門京都エリアでは、岩戸ホーム(福知山市)が昨年6月にベトナム人技能実習生2名を受け入れたのに続き、同8月にはサンヒルズ紫豊館(同)が2名、さらにこのほど岩戸ホームに2名が加わり、受け入れ技能実習生は計6名となり、介護技術習得に向け日々奮闘されています。

「在留期間3年」と定められた期間に介護技術、日本語習得の指導に努めています。外国人技能実習生の成長に期待が高まっています。



ベトナム人技能実習生が計6名に

1、2期生と合わせ6名が職場に

吹田竜ヶ池ホームでは、昨年10月7日からベトナム人留学生3期生、ダオ・ティ・ニュンさん(写真左)とグエン・ティ・ダオさん(写真右)の2名のアルバイトを受け入れました。



吹田竜ヶ池ホームでは一昨年3月以降、計6名のベトナム人留学生の採用となります。同ホームはこれまで留学生1、2期生とともに文化や価値観の違い、相互理解の難しさなどを乗り越えてきましたが、そんな貴重な経験を振り返りながら、3期生への介護技術の指導も始まりました。「日本語は難しい」という感想もあるようですが、自助努力や担当フロアのスタッフ、先輩1、2期生にも支えられ順調に成長している様子が伺えます。現場の仲間として温かく見守っていききたいと思います。

ベトナム人留学生のアルバイト3期生2名受け入れ